

## 一般演題 1

### Rapid turnover protein 測定の有用性について -PEG 症例での検討-

済生会松阪総合病院 医療技術部検査科<sup>1)</sup>、内科<sup>2)</sup>  
笠井 久豊<sup>1)</sup>、清水 敦哉<sup>2)</sup>

【はじめに】近年、経口摂取不良患者に対し経皮内視鏡的胃瘻造設術（以下 PEG）が施行され、その数は増加しつつある。PEG 症例に対し術後 3 日目より胃瘻による栄養療法を開始しているが、アルブミン値（Alb）、総リンパ球数（TLC）では短期間の栄養状態の評価を行うのは困難であった。そこで半減期が短く、蛋白動態を鋭敏に反映する Rapid turnover protein であるプレアルブミン（PA：半減期約 2 日）、レチノール結合蛋白（RBP：半減期約 0.5 日）を PEG 施行の当日と 2 週間後に測定し、Alb や TLC の変化と比較検討してみた。

【対象および方法】平成 16 年 5 月より PEG 造設を行った患者 21 名（男：女 = 9：12、平均年齢 78.9 歳）で、Alb,PA,RBP,TLC,CRP の PEG 造設前後での測定値の差を算出し、それぞれにおける変化率  $R(\%) = \{(PEG \text{ 後} - PEG \text{ 前}) / PEG \text{ 前}\} \times 100$  を求めた。

#### 【結果】

Alb 増加例のほとんどは、PA、RBP とともに増加を認めた。また Alb 低下例の中にも PA、RBP の増加する症例が存在した。一方 TLC と PA および RBP との推移には明確な関係が見出せなかった。

PA の推移と RBP の推移には相関係数 0.83、回帰式  $Y=0.16X+0.16$  と良好な正の相関がみられた。

栄養指標マーカー 4 項目につき変化率  $R(\%)$  における t 検定を行ったところ Alb に比し PA および RBP で有意に上昇していた。

【考察】今回の検討では PA および RBP の推移は臨床経過と一致し、また変動幅も大きく短期間の栄養評価において Alb よりも有用であった。